



(株)彩石の堂内廟事業

長泰寺 「市ヶ谷 坂の上 堂内廟」

設計デザイン: 建築家 加藤雅康 / カトウアーキテクトオフィス

株式会社 彩石

本社: 東京都文京区小石川3-3-7

tel. 03-6801-8902 [https://saiseiki.net/](https://saiseki.net/)



1・3・6「市ヶ谷 坂の上 堂内廟」。長泰寺本堂内の壁面に138個の納骨箱を設ける。箱は桐製で、前面にすべて木目の違う杉板を配置。表情が面白い。2左は大谷有為副住職、右は(株)彩石・大西正也社長。4・5 本堂・内陣の向かって左のスペースに設けられた。シンプルモダンの意匠で、本堂の風格と威厳を損なわない。7 遺骨は粉骨してさらしの骨袋で納める。8 東京都心・市ヶ谷の坂の上に建つ長泰寺



*写真7: (株)彩石提供

曹洞宗 鳳仙山 長泰寺
東京都新宿区市谷左内町11
市ヶ谷 坂の上 堂内廟ホームページ
[https://choutaiji-saiseiki.com](https://choutaiji-saiseki.com)



お寺が将来にわたって地域や檀信徒とつながりを維持していくために、いかに境内地を有効活用していくかは一つの課題だ。近年ではよりコンパクトな樹木葬墓地なども登場しているが、特に敷地の限られるお寺ではそれらを新設する用地確保が難しい。東京・市ヶ谷に門を構え、同様の事情を抱える長泰寺(大谷哲夫住職)では二〇二〇年、屋外ではなく本堂内部に堂内廟を開設し、多くの支持を集めている。手がけたのは(株)彩石(大西正也社長)で、その設計デザイン

は建築家・加藤雅康氏(カトウアーキテクトオフィス、昨年九月号掲載が担当)。荘厳な本堂にしつとりと溶けこむ供養空間が生まれた。「最初は境内の隣接地にビル型納骨堂(自動搬送式)の建設を検討していました。しかしメンテナンストコスト面も含めて計画を見直し、より身近で親しみのある納骨施設として、この堂内廟を新設しました。本堂内につくったのは、他に場所がなかったから(笑)。でもよく見る黒と金の納骨壇は目立ちすぎるので抵抗があり、

本堂の風格や威厳を損なわないシンプルモダンのデザインを希望しました」長泰寺の大谷有為副住職はそう話す。約五百年の歴史を持つ同寺に生まれるも、仏教系大学ではなくキリスト教系大学に進学。卒業後は一般企業で三年間、システムエンジニアとして勤めた。その後、曹洞宗大本山・永平寺で修行し仏門に入るが、まずは海外での布教活動に注力。ハワイにある曹洞宗寺院の住職を五年間勤めた他、アメリカやヨーロッパでも活動し、「普通



長泰寺は約500年前に開山。もとは現在の千代田区麹町三番町の近辺にあったといわれ、三代將軍徳川家光の時代に現在地に移転した。約55年前に上階がマンションの近代的なお寺に改修。(株)彩石は境内整備も行ない、右写真のように、より明るく親しみやすい空間とした(写真右手の建物が本堂、上部はマンション)。また左写真のように、歴史的石造物(宝篋印塔は江戸時代後期の建立、写真・奥の石碑は新宿区地域文化財指定の祭馬碑)を整備する他、新たにペット合祀墓(写真・右手前)も設置している



長泰寺墓地に建つ合同供養塔。室内廟の使用期間(5年または10年、延長可能)満了後に骨袋のまま埋葬され、永代供養される

のお坊さんが歩む道からは外れているかな」と冗談まじりにいう。今年にはいよいよ同寺の第三十六世住職を引き継ぐ予定でもある。

「これからのお寺のあり方を考えるうえで、大谷副住職のような変化に応じるやわらかな発想力や感性が必要だと思います。当社はビル型納骨堂の計画にも参加していましたが、実は私自身は否定的でした。『もっとお寺らしく、な

おかつ他にはない新しいものを考えましょう』と話し合い、この堂内廟が生まれました」

(株)彩石の大西社長はそういう。同社は寺院を専門に、墓地・墓石や樹木葬・納骨堂の企画販売・管理、無縁墓・永代供養墓の整備、文化財石造物の整備・移設を含む境内整備、福利厚生&健康サービス(THENZEN倶楽部)、建築石工事(寺院以外でも)など、多角的な事業を展開。長泰寺とは約十年前からの付き合いで、墓石事業や境内整備事業、そしてこの「市ヶ谷坂の上 堂内廟」の企画・販売・管理を行なうなど、密接な関係性を築いている。

「堂内廟では、大西社長の紹介で建築家の加藤さんが参加したのも大きかったですね。まさに最初の提案で、シンプルモダンを求めている私のイメージを見事に具現化された。まったく議論する必要もなかったですね」(大谷副住職)

詳細は前掲の写真のとおり、堂内廟は本堂内の一角の限定的な壁面を利用して設えられている。納骨用の箱は全部で百三十八個。すべて桐箱で、その一つひとつに一枚ずつ木目の違う杉の無垢板を、パッチワークのように取り付けて

姉妹や友人同士なども可能で、制限は定めていない(宗教宗派、国籍なども不問)。使用期間は一人用・二人用ともに五年または十年(ともに延長可能)で、二人用では二霊目の納骨から起算する。期間満了後は境内墓地に建つ合同供養塔に埋葬。遺骨は、(株)彩石が自社で丁寧に粉骨したものを骨袋に入れて納め、合同供養塔にも同様に骨袋で埋葬する。お盆やお彼岸などに合同供養が営まれ、永代にわたって供養される。

「開設してすぐにコロナ禍が本格化し、当初はなかなか使用者が集まりませんでしたが、認知が広がるとともに現在は百件ほどが使用されています。使用者のなかには、遠方のお墓をしまわれた方や両親と娘二人のご家族、单身者などもいらつしやり、お墓のあり方が問われているのを実感しています。同時に、日本人の心の奥底には供養の思いが根づいていて、お墓が心の支えになることも再認識させられる。形は変わっても、その思いに応えるお墓、供養をお届けするのがお寺の役割と考えています」

そう話す大谷副住職。お墓と真摯に向き合うお寺を支えるのが、(株)彩石の仕事である。

彩石グループ
THE ZEN 倶楽部

Benefit one
Dai-ichi Life Group

福利厚生サービス最大手・(株)ベネフィット・ワンと提携

檀家、信徒募集に繋がる
宗教法人の為の福利厚生

霊園や樹木葬など、
寺社の基軸サービスを
ご紹介できます！

ベネフィットステーション
1100万人以上の会員向けPR

代理店を募集中です！
03-6801-8820

お檀家 信徒様
職員様
寺院の関係者
座禅・御詠歌の会員様
霊園・樹木葬 契約者様
介護・ケア施設 / 職員様
保育園・幼稚園 / 職員様

【運営元】〒112-0002 東京都文京区小石川 3-3-7 THE ZEN 株式会社 ((株)彩石グループ) https://the-zen.jp info@the-zen.jp



長泰寺墓地。都心の寺院墓地らしく限られた敷地に墓石が整然と建立されている。(株)彩石が墓地・墓石の販売・管理を行なう

いる。上部のメタリックな左官塗装は幻想的な天空を表現。下部の縦棧の奥は収納スペースになっていて、こちらも加藤氏が天然木でデザインした参拝用の香炉台や前机などをしまえるようになっている。杉の無垢板の配置も当然、デザインされたものである。

使用区分は一人用と二人用で、使用者の七割ほどが二人での申し込み。夫婦が多いが、兄弟